

私が期待する写真

審査会員から

第一部 自由

■大和俊行

一部応募に思う

私は第10回展に初応募し、期待感に胸躍らされ、初入选を喜んだことを思い出します。

私の写真の始まりは、リアリズム非演出写真の全盛時代で生活スナップが多く、その時代の世相を反映した作品をよく写しました。

近郊の農家や漁村などを歩き、ローカルカラーも豊かでした。北洋漁業基地函館もよくモチーフを選び、朝昼晩とカメラを向きました。当時、露光決定はマニュアルでフィルム感度も低く、現像にも気を使いました。ズームレンズも無く数台のカメラを下げ、車も無く歩き回りました。

今はデジタル時代でカメラ機能も自動化され、感度設定も自由ですし、撮影駒数もフィルム交換なく大量に写せます。撮影者は全能力を作品作りに集中できます。

時代が移り、あるものをそのまま写すの

ではなく自分の感じたものを作品に強く表現しようとする傾向があります。また、春・夏・秋・冬、一年中イベントも多くあり、何時も何気なく見慣れている情景であつても風景だけでなく観光的、歴史的に魅力のあるもの、現地の方々の明るい職場の光景や、また観光客の素晴らしい笑顔、表情など特色のあるもの、見方を変えれば身近な所に題材は限りなく豊富にあると思えます。

一部は自由作品ということで撮影範囲と方法が広くなり、より自分の感性が求められることとなります。イベントなど参加の人達を撮影するにも時間や天候の変化を利用して既成概念にない場面を撮りたいものです。スナップもドラマチックに創造する作品を心がけ、他の人達の写真と違う、作品に深みが出るよう努力と感性を磨きたいものです。

感度設定も絞りもシャッタースピードもカメラまかせはいかかなものか、自分の個性を表現するためにも、被写体に合わせて感度と絞りぐらいはマニュアルで選択したいと思えます。

最近では類型や類似写真が問題になりまします。ますます個々の感性による作品が求められます。

第二部 観光・産業

■福田光男

魅力と感動を感じる作品を

北海道は広大な大地と素晴らしい一次

産業、二次産業(工業、農業、林業、漁業)など沢山あります。また、春・夏・秋・冬、一年中イベントも多くあり、何時も何気なく見慣れている情景であつても風景だけでなく観光的、歴史的に魅力のあるもの、現地の方々の明るい職場の光景や、また観光客の素晴らしい笑顔、表情など特色のあるもの、見方を変えれば身近な所に題材は限りなく豊富にあると思えます。

観光客でなくても作品を見た人が行きたくなるような、又来たくなるような建設的で創造性に富んだ観光偉力、感動を与え感動する魅力ある豊かな作品を期待しています。

第三部 ネイチャーフォト

■才川 稔

新鮮な写真に期待

第三部ネイチャーフォト部門は道展に

おいても競争率の激しい部門であり、北海道を代表する自然を生かしたすばらしい作品が並びます。その中で皆さんが努力され入選された時の喜びは大きく、私も忘れることができません。その喜びは今も昔も変わらないと思えます。

現在、撮影機材の進歩により難しい操

作は必要としない、誰でも楽しみながら撮影ができる状況と思われまします。しかし、でき上がった写真には、撮影した時の感動が表現されていないことが多いのです。自分が何に感動したのか、ただ撮影に苦労したから、お金を使用したからなどの思いだけで、自分は良い写真だと思つても多くの人に伝達ができることで写真の良し悪しが決まるといつても過言ではないと思えます。

また、作品を拝見するたびに思うことは、作者の撮影意欲は感じますが、類似作品が多く見られ残念に思えます。

それに図鑑的な写真や表面だけのコピーも意味がありません。生き物などは十分観察し追求することにより、良い作品に繋がると思えます。作者の柔軟な視点で捉えることで素材を生かすことになると思えます。

もつと個性的で大胆であり、新鮮な写真を目指します。

写真はチャンスに恵まれるか否かで決まると言われますが、出会いは自分で作り出すものです。皆さん頑張ってください。